

す。

私もいろいろな場所、かわと道の駅に行くわけですが、やはりどこに行っても地場の野菜というんですか、野菜だけに限らず、もちろん手芸の得意な人は編み物とか、つるで編んだかごとか、そういったものも、いろんなものが産直に置いてあるわけですね、かわと道の駅の中にですね。それが人のある程度所得になるということです。本当に何万円というような金じゃないと思うんですけれども、本当に少しだと思うんですけれども、そういったふうに積み重ねていくと物すごい金額になるんだなというふうに思っているところです。

今回もいろいろ応援弁舌なんていうことで、私させていただいたんですけれども、よく大根1本の話させてもらったんです。大根1本、道の駅で買っても恐らく100円。また、スーパー、県外スーパーというんですか、資本の。スーパーで買っても恐らく100円なんです。ただ、その中身が違うというのは、長井市で生産された人の大根なのかということなんですよね。そうすると、やっぱり長井市で生産された人の大根であれば、長井市の人にその売上代金というんですか、そういったものが必ず入ってくるということだと思います。

これも資料として頂戴したんですけれども、これはおらんだ市場菜なポートの運営状況ということで、昨年度までの売り上げが一体どのくらいあのかというようなこともちょっとお聞きしました。1億6,275万8,136円ということだそうです。仮にこれが15%ぐらいですか、手数料を取られたとしても、残るものはそれなりに残るわけでございます。仮に1億2,000万円ぐらい残ったとしても、それが市民の皆様のこと……。仮にでございますので、詳しいことを言われるとちょっと。かなり暑いな、ちょっと。

ありがとうございます。

そういうことなんです、私が言いたいのは、

長井市に落ちるお金というのは、直接。すぐ直接的に何か見えてしまうということがあると思うんですけれども、間接的にはやっぱり長井市に、生産者の人に落ちてるということでございます。この1億6,000万円というのは、簡単に言いますけれども、先ほど市長が言ったように、1年間給食費を無償にすれば1億2,000万円ぐらいかかるということでございます。そういった面から考えても、かなり高額だなというふうに考えているところでございます。

そしてまた、登録者が266人おられまして、実際出品されている人が219人だそうでございます。そうしますと、単純にそれを割り算すれば、私の計算が間違っていれば何ですけれども、70万円先ぐらいは、単純に計算すると入っているということでございます。

そういった面では、やっぱり人の雇用に観光交流センターがすごい重要な位置を占めているということだと思います。ぜひ、人の意見というのはまだまだあると思うんですけれども、真摯に聞いていただいて、よりよい観光交流センターになるように私も願っておりますので、市長もぜひ努力していただきたいと思います。

質問はもうできませんので、これで私の質問とさせていただきます。ぜひよろしくお願ひ申し上げます。

ありがとうございました。

梅津善之議員の質問

○小関勝助議長 次に順位7番、議席番号2番、梅津善之議員。

(2番梅津善之議員登壇)

○2番 梅津善之議員 おはようございます。

12月定例会最後の一般質問となりました。お疲れのところとは思いますが、最後まで

よろしくお願いいたしたいと思います。

東日本大震災から3年半、進まない復興、先の見えない原発問題、そして今年7月27日には御嶽山の噴火、57人ものとうとい命が亡くなり、6名もの行方不明者もおられます。亡くなられた方に心からご冥福をお祈りしますとともに、一日も早いご不明な方の発見を願うものでございます。

さて、阿蘇山の噴火であり、ここ山形蔵王でも火山性の微動など、そして7月中旬の集中豪雨。災害がいつ起こってくるかわからないのではなくて、いつでも起こるような、そんな日々におびえながら農業を営む生産者も今年、大変厳しい年となっております。自然相手の農業がこれほど大変でつらい業種であることを改めて感じた1年だと思っております。

さて、今年の農業は厳しいという言葉が身近な集まりの中でいつも話されることに、非常に耳に重くのしかかってきます。米価の概算金、山形県の主力品種である、はえぬきで2,600円も下がってしまい、米農家としては大変な打撃だと思っております。さらに野菜、花、切り花、鉢花も市場の価格低下がとまらない現状であることは、皆さんもご承知のとおりだと思っております。どんな生産者でもとても厳しい1年であったような1年となっております。

そんな状況の中でも、土地利用型と言われる稲作などを主に担い手に集約していくことを国として進めている最中であります。農地集積協力金、農地土地利用型農業から経営を転換、リタイアを契機として、人・農地プランに位置づけた地域の中心となる経営体に農地集積がされる場合に、市町村がそれに協力するものに対して、いわゆる農地の出し手によって支払われる金額であります。0.5ヘクタール以下では30万円、0.5ヘクタールから2ヘクタールまでは50万円、2ヘクタール以上は70万円です。あくまでも農家をやめる出し手への集積協力金となっ

ております。果たしてことしの米価でこの集積協力金を受けておやめになる方がたくさんいらっしゃるような気がしております。

そんな中でです、我が農業委員会と、私たちのまちの農業委員会としてであります。標準賃借料の基本的な考え方、現状を踏まえた早期の検討をお願いしたいということでございます。農業委員会会長の適切なご返答をお願いしたいと思います。これが第1番目の質問でございます。

2番目の質問でございます。今年6月13日から9月14日までの間、山形デスティネーションキャンペーンが行われました。デスティネーションキャンペーンとは、地方自治体及び観光業者等がJRグループと連携して観光素材の発掘、磨き上げを行い、それを期間中に宣伝することにより全国から誘客をふやす観光キャンペーンだと考えております。日本のふるさと、美しい山形、長井市の実感できる滞在型の旅の提案、山形長井へお越しくださる方を温かいおもてなしの心でお迎えする、国内最大のキャンペーンです。

さて、長井市では、歩きながら市内をめぐるまち歩き、物づくり体験など、多彩な催しを企画されたと思っております。

まず、期間内のまち歩きのイベントとして、「あやめと黒獅子伝説・商家丸大扇屋の歴史の道さんぽ」「あやめ花咲く田舎まち、遊々さんぽ」「いっしょに踊ってみやしゃんせ さくらんぼとあやめコース」「初夏の風を感じ 最上川舟運のなごりを歩く」「絶景八ヶ森と夏風のトロッコ道・置賜白川フットパスを歩こう」「裏道・こみち・馬街道めぐる うま馬コース」「夏の終わりに梅（梅花藻）を探して桜（さくら肉）に舌つづみ」「無病息災を願ってご信心 長井最古の町並みに黒獅子が舞う」など、まち歩きのコースがたくさん企画されておりました。

さらにはイベント列車や物づくり体験、世界にオリジナルのけん玉づくり、勾玉づくりや最上川舟運をめぐる食べ歩きバス、けん玉の里のプロジェクトなどでございます。

期間中には、あやめまつり、長井おどりパレード、市民パレード、ながい水まつり、最上川花火大会、大相撲長井黒獅子場所、高橋まゆみ人形展など、改めて振り返ってみれば、企画、イベント実行まで、市民の方はもとより職員の方が苦勞されてさまざまご努力されたことと思ひ、深く感謝申し上げます。

さて、ここに住んでいる私、長井に住んでいる私にとっても知らないことがたくさんあったような気がします。自分自身の長井の発見も当然でございますけれども、期間内の反響なり今後の課題、さらには長井らしさをPRできたのか、そして山形鉄道との期間内の状況など、感じていること、今までのこのキャンペーンでの結果などを具体的に教えていただきたいと思ひます。

続きまして、3番目の質問です。

まずは市長、選挙、大変ご苦勞さまでございました。今、長井を幸せにしますと、未来をつくる3つの重点目標と10のチャレンジ、その中ですごく私が気になったことがございます。

にぎわいづくり、働く場づくり、活発な地域づくりのお考えの中に、子育て支援施設を複合施設として町なかに整備しますとあります。また、全天候型を初めとする体育スポーツ施設の充実を図ります。もう一つ、県の街路事業により安心・安全な中心市街地の形成と、市民が集える複合型公共施設の整備を行いますとございます。

具体的に、市長の考えで結構でございますので、いつごろであるとか、どれくらいの規模であるとか、どの辺にとかという、市長のお考えがございましたら、ぜひお聞きしたいと思ひて質問をいたしました。

以上で壇上よりの質問といたします。ご清聴

ありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津善之議員のご質問にお答えいたします。

私のほうは2点目と3点目ということで、ご提言、ご質問をいただきました。

まず最初に、山形DCについてでございますけれども、私のほうからは全般的なことについてお答えをさせていただいて、細部については観光振興課長から答弁いたさせます。

なお、まず初めにお話ししたいというふうに思っているのは、長井の観光は発信が下手だというふうに言われてたんですね。どういうふうにして全国にPRしているんな人にお越しいただくのかと、それは長井が特に下手だということを言われておりました。

ただ、今から20年前、いや、そうじゃないですね、15年ぐらい前までは、例えばあやめまつりのときなどもキャラバンというようなキャンペーン隊を組んでずっと回ってたんですね。東北とか東京ぐらいですけども、東京と長野とか山梨なんかも行ったと思ひますが、あとは栃木、群馬、茨城、あと新潟、宮城、秋田ぐらいはずっと回ってたんですね。放送局に行ったり新聞社に行ったり観光エージェントへ行ったりしていたそうです。私が直接行ったわけじゃないんですけども。それより以前は、若柳会の先生などのお話などを聞きますと、長井からトラックに乗って、これ何十年も前の話でしょうけども、仙台駅まで行って、そこでみんなで長井おどりを踊って、長井にござとごやえということをやったというのは聞いてますが、最近では観光のスタイルっていいですかね、団体旅行から個人、グループの旅行に変わってきたということで、その辺は今ではやっておりませんが。

そんなことで、今回特にありがたかったのは、これは私どもで仕掛けたわけではありませんけれども、吉永小百合さんのCMというのが実は、

市民の皆さんは余り感じていないかもしれませんが、これはすごいことなんです。多分これから長井でも何十年に一遍かぐらいしかこういったチャンスはないんだろうというふうに思いますが、吉永小百合さんのJR東日本、大人の休日倶楽部のPRポスターとCMに長井市が採用されたということであり、これは大変大きな反響があったと思っております。

吉永小百合さんのファンは全国に、もちろん中高年を中心にたくさんいらっしゃいますので、国内旅行をされるのが中高年が多いということで、JR東日本なども吉永小百合さんをこのCMに起用しているという理由がそこにあると思うんですけども、大変な効果があったと思います。

まず、未確認情報であるということをお断りしなければならぬんですが、タレントがCMに出る場合、タレントごとに幾ら幾らの金額って相場があることはご存じだと思います。吉永小百合さんに出ていただく場合には軽く億のお金が必要だというふうにお聞きしております。また、この吉永小百合さんをやませ蔵で撮影したポスターが大手新聞、これは大手新聞に載りまして、どことは言いませんけども、見開きで2ページでした。あれ全国版であれを載せるとどのぐらいかかるかという、通常は4,000万円と言われてます。ですから、4,000万円をかけて、2面ですけどね、長井のPRをしていただいたということに近いと私は思ってます。

長井市のやませ蔵の最寄り駅はフラワー長井線の長井駅ということで、JR東日本のCMでありながらJRじゃないんですよ。ですから、こういった意味では大変異例なことだというふうに言われています。そういった意味では、JRには大変感謝しているところでございます。

キャンペーン中もJR東日本の取締役役山台支社長なども長井にもお越しいただきましたけれども、やませ蔵とか丸大扇屋などもごらんになっていきましたが、そういった意味では市を挙

げて山形DCに取り組んだ成果があったと。これはもちろん観光ボランティアガイドや観光協会、まちづくりNPOセンターさん初めいろんな皆様のおかげだというふうに思っています。

このCMでは、「山の港町」というキャッチコピー、フレーズも、さすがプロだなというふうに思いました。大変よかったです。

私も大人の休日倶楽部の会員になってるんですが、10月号だったですかね、表紙がやっぱりやませ蔵の吉永小百合さんのあの表紙でしたけれども、今回、山形DCの山の港町長井ということと、神が住む山羽黒というコピーでしたね。そういう一流のやっぱり広告代理店のコピーはすごいなというふうに思ったところでございます。

長井市の舟運文化を前面に打ち出し、長井らしさを十分にPRすることができたと思っております。おかげさまで、昨日、今泉議員からもご指摘あったように、長井でもまち歩きをする人が増加しました。市民の皆様も首都圏に住む親類から、長井市のCM見たよというような電話を受けた方も多かったというふうに聞いております。吉永小百合さんの効果は、ただ1年だけではなく5年間続くという説もございまして、今後もアフターDC、来年ありますけども、積極的にPRしていくことが大切だと思っております。

山形DCについては、ことしの結果だけを追い求めてはいけないというふうに思っております。これをきっかけに改善して、長い目で効果が出るようにすることが肝要だと考えております。

なお、今回のDCを振り返って、まずは市内できちんと総括をしなきゃいけないと思うんですが、確かにいろんな、地元ではこういうコース、ああいうコースというふうにつくってたんですが、どうもそこが長井を訪れた方にうまく伝わったかという部分が非常にあります。あと

は、長井はやっぱり観光のまちではありませんので、お金を使えないんですね。観光客がいらしたとしても、お金を、例えばお土産を買いたいって、お土産を買うところを普通は見つけられないわけですね。あと食事も何がおいしいかって知らない。そばがおいしかったり、あるいは馬肉チャーシューラーメンは名物なわけです。それもわからないわけですね。そういったところが課題なんだろうと。なおこれからきちっと総括をして、来年、アフターDCというのがありますので、これに活かしてまいりたいと思います。詳しくは観光振興課長から申し上げます。

続きまして、3番目の、市長が述べていた公共施設の整備とはということで、これは恐らく法定ビラの中の部分をご指摘されてるんだというふうに思います。

まず最初に、済みません、まちなかに子育て支援施設の複合施設の整備とはという点でござりますが、これは以前からいろいろ今後の子ども・子育て支援に関するニーズ調査というものを行ってきたわけですが、昨年の12月にこの調査をいたしまして、その結果を見させていただきましたと、市に期待する子育て支援の充実についての質問についてはこういうふうな回答がございました。

まず、子育ての費用負担の軽減施策の充実、いわゆる保護者の経済的負担を軽減してほしいというのが一番多くて71%でございました。次に多かったのは、出かけやすく楽しめる場の整備、これハードを求めていますね。これが69%だったんですね、アンケートの。この2つが断トツで、あと次に、乳幼児医療費の助成の充実ということで、これ49%の順となっております。自由記載の意見の欄では、子供の遊び場、広場の整備に関する要望を最も多くいただいております。

さらには、ことし8月25日に市内の保育園、

幼稚園、児童センターの、昨日も申し上げましたけれども、また、子育て支援センターをご利用されている方々、大体20数名の方にお越しいただいて、代表者の方ですね、意見交換を行いました。さまざまな、困っていることは何ですかとか、あるいは長井市の子育て支援に対して、あるいはその他全てでもいいですから、何かご意見をいただきたいと。それと、こちらから、子ども・子育て支援拠点施設の整備要望が高かったと、あと経済的負担の要望が多かったというアンケート調査などもお知らせしながら意見交換をしたところです。

その中で出てまいりましたのは、雨の日などは遊び場を求め遠くに出かけている実態や、遊びの広場の整備を望む多くの保護者の意見をお伺いし、身近なところで親子が一緒に出かけ、遊びやスポーツのほかに文化活動や保護者同士の交流が楽しめる施設整備が強く求められていると感じたところです。

保護者代表の方の1人はこういうことをおっしゃってました。例えば山形あたりのショッピングセンターなんかに行きますと、確かに楽しめると。しかしすごくお金がかかると。ですから、お金をある程度かけなくてもやっぱり安心して1日親子で過ごせる、あるいはほかの保護者とか子供たちと一緒に楽しめるようなところが必要なんだということだったんですね。

複合施設につきましては、中心市街地に図書館、多機能型図書館ですね。あと老人福祉センター、休日診療所、これは医療施設と保健センターですね。あと子育て支援センターのほかに屋内型の遊び場やミニシアターなどの機能を複合的に整備し、まちなかにぎわいづくりもあわせて進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。これは直接そういう子育て世代からの意見をもとにそういうふうに考えているところでございます。

ちょっとこれ一通り答弁させていただきます

が、全天候型の体育スポーツ施設の充実とは何かということですが、これは陸上競技場を全天候型にして雨の日も支障なく競技できる環境は、今、学習プラザの整備を進めているところなので、ナイターなども多目的広場のほうは結構明るいナイターです。陸上競技場のほうは、夜、競技はしませんので、練習だということで、半分の、やがて必要ときは倍に電球をつければ明るくできるという機能を含めて整備しておりますが、今回私が述べていた内容は、冬期間に運動できる空間を提供できないかということでございます。雨の日とか冬期間というのは、隣町の施設を遠慮して使用しているというのが私たち長井市民の実態でございます。長井市にもぜひと、今までは長井市が財政大変だということで我慢してきたと、でも何とか考えてほしいという声は、随分前からいただいております。当然梅津議員にも、子育て支援施設の件も聞かれています。

私は市長に就任して最初の年から子育て支援施設は言われてました。外の施設だと、ちょうど南陽市が次の年に花公園をつくって、あと米沢市のわんぱくパークですか。

（「ワクワクランド」と呼ぶ者あり）

○内谷重治市長 そうですね、はい。

それとあと、タントクルセンターができかけ、できたあたりですね。そんなことで、そういったものも長井市でハード整備してほしいという声が大分前からありました。ただ、それはもう少し待ってほしいということでご協力いただいていたところです。

そんなことで、できれば運動だけでなく、お年寄りから子供まで、そこに行けばさまざまな運動等ができる、使い方ができる複合的な施設で、欲を言えば、タスにはありますけれども、もう少し料金体系が違って、フィットネスやダンス、ヨガができると。そして、多機能型図書館、子供、キッズ図書館ですね。今の図書館は

子供が声を上げたくても上げられませんので、そういったものなどもあればさらによいという将来像でございます。

最後に3点目の、街路事業の進展によって市民が集える複合型施設等の整備とはということですが、これ全て一緒です。3つのことは全て一緒に考えております。

現在、本町地内で都市計画道路桐町成田線街路整備事業が山形県により実施中でございますけれども、この事業後、継続して今度は通称「駅前通り」の都市計画道路長井駅海田線街路整備事業の早期着工を国、県に要望しており、私の感覚としては、長井市がさまざまな事業を、長井市が何もしなかったら県はしないって言うてるんですよ。ですから、かわと道の駅も実は県が見てるんですね。多分かわと道の駅をしなかったら、県はもう終わりです、駅前通りしませんという私の感覚です、これは。ですから、長井市が積極的に、県だけじゃなくて、まちを挙げて中心市街地を活性化するという意思があれば、駅前通りの街路事業もやりますよというふうに、私の感覚としては捉えております。この路線は、長井市の表玄関である長井駅から国道287号までの重要な路線であり、本町通りとともに中央商店街を形成しております。また、都市計画道路桐町成田線と交差する道路であり、今後のまちづくりを進める上で重要と考えております。

現在、国の方針では、地方の人口減少と高齢化、地場産業の停滞などにより、地域の活力が低下しており、経済社会情勢の変化に対応した都市の再構築が求められていることから、地方の活性化方策として現在ある都市機能、これは医療・福祉施設や商業施設等ということを指してますが、これを生かし、公共交通網の再構築、これはとりあえずことし実験的に市民バスを増便したというのも、これは一体なんですね、コンパクトシティとネットワークということの一

体化であります。そして、中心市街地活性化の推進をしていくコンパクトシティという方針を示しており、全国の多くの自治体でもこの考え方で都市の再構築に向け取り組みを行っています。

これからは人口減少ということから、郊外に広げるよりまちなかの機能を活用し、地方都市ににぎわいを再現し活性化を図っていくというのですが、私も今後の街路事業を進める上では道路の改良、整備だけではなく、にぎわいを創出するための施設の整備も重要と考えております。子育て施設や老人福祉施設、老朽化している図書館の建てかえなども考慮に、ミニシアターやカルチャー機能、フィットネスや講習、講座などができるところのある多機能型図書館の整備など、市民が集う場所があることにより周りにも、今度は民間のほうでさまざまなお店が張りついて周辺の活性化が図れると。そうしますと、市民はもとより周りの市町村からも多くの人たちが長井のまちなかに遊びにいらしてくださいという考え方でございます。

私は、そういった意味で言えば、現在の都市再生整備事業をさらに進めるために、リノベーション事業という事業がございまして、これは別に認可を取らなきゃいけないんですけども、これらを基本的な考え方をまとめてリノベーション事業として今後早急に検討すべきじゃないかと。その際には、いつごろ、どの規模でというふうに梅津議員からございましたけども、私が申し上げると、市長が勝手に決めたといつも言われておりますんで、規模等は申し上げません。ただし、そういう意見がありますので、これはやっぱりやらなきゃいけないんじゃないかと、必要な公共事業はやっていかなきゃいけないと。ただし、今ある施設の中でそれが全て要るかということについては、皆さんと、市民と議論をして、使わないものは、あるいは不必要、老朽化したものは別な施設に置きかえる、ある

いは再構築するというのも必要で、今ある施設だけでは、もう市民は満足できないわけですね。残念ながら周りをお願いに行っている状況ですから、必要なものはむしろ我々できちんとつくって、周りのまちから来てもらうような、そういう中心市街地の活性化を図りたいという考えでございます。ぜひご理解を賜りますようお願いいたします。以上でございます。

○小関勝助議長 鈴木榮一農業委員会会長。

○鈴木榮一農業委員会会長 梅津善之議員のご質問にお答えいたします。

私のほうには、1番の農地の標準賃借料について、基本的な考え方、現状を踏まえた早期の検討はできないものかについてお答えいたします。

最初に、平成21年6月24日施行の農地法の改正により標準小作料が廃止され、既に5年が経過しております。長井市では現在、参考賃借料として24年に出されたものを使用しておりますが、あくまで参考でありまして、実際に契約する際は相対が大前提であることを説明しております。

現在、置賜管内におきまして、参考賃借料を提示している団体と実際の契約金額を使用している実勢賃借料を提示している団体がほぼ半々でございます。参考賃借料を算出する際の算定根拠の作成が難しく、実勢賃借料を採用する方向に進んでいるようでございますが、長井市におきましては今年度、農地専門部会が動きまして、できるだけ実態に近い参考賃借料を作成すべく検討作業中でございます。

できるだけ早くお示しできるように対応しておりますが、その検討作業でございますが、事務局でデータ収集を行いまして、農地専門部会を開催し、原案を作成いたしまして、貸し手と借り手双方から組織している長井市農地賃借料実態調査委員会を開催いたしまして決定する流れとなっております。この委員会を来月半ば

に開催する運びとなっております。当面の目標としましては、1月下旬のJAの文書配布に配布するようなスケジュールで進めておりますので、ご理解いただくようお願いいたします。以上です。

○小関勝助議長 鈴木広弥観光振興課長。

○鈴木広弥観光振興課長 私のほうからは、山形DC、2番目の質問についてお答えさせていただきます。

(1)の期間内の反響でございますけれども、大変大きい反響があったなと思っております。まち歩きが大変多くなりました。市長が述べたとおりでございます。

2番目の今後の課題ですけれども、課題については山積みの状態であると思っております。

まずは経済効果を上げる仕組みをつくらなきゃいけないと思っております。単に観光客数だけがふえても仕方ありません。やっぱりお金が落ちる仕組みをどうやってつくっていくかということに力を入れていきたいと思っております。

また、うちのほうでは観光まちづくりプラットフォームの構築と、それを設立するということを第1目標にしておりますので、そちらのほうも頑張っていきたいと思っております。

あと3番目の長井らしさをPRできたのかということについては、これも今回、JRさんのほうで長井市を取り上げていただいて、「山の港町」というキャッチフレーズを立てて、長井市の舟運文化を非常にPRしていただいたなと思っております。

それから、4番目の山形鉄道の状況について、山形DCでどのような影響を受けたかというようなことのご質問ですけれども、企画調整課のほうから山形鉄道に問い合わせいただきました。観光客だけを集計した数値はなかったんですけども、それに近い数値としまして、旅行代理店経由の旅客数というのを集計しておりました

ので、そちらのほうをお伝えしたいと思います。旅行代理店経由ということでございますので、個人客、グループ客を除く団体のお客様ということですね、その数ということになります。

ことしの6月でございますけれども、2,584人ございました。去年の6月が2,319人でございますので、ちょっとふえております。7月につきましては1,435人、去年の7月は2,217人でございますので、減っております。これは7月集中豪雨がありまして、10日間不通だったという影響がありました。それで大幅に落ち込みました。8月でございますけれども、920人ございました。去年の8月が162人でございますので、増加しております。9月はことし1,548人、去年の9月が260人だけございましたので、ふえております。6月から9月、4カ月間通算で見ますと、ことしが6,487人、去年が4,958人でございますので、3割ほどふえております。

一方、観光客数でございますけれども、イベント時の雨ですね、それから国道287号線が白鷹地内大瀬で不通になってしまったことなどが重なって、観光客数のアップということについては長井市のほうでは残念ながら達成できませんでした。

一つ一つ申し上げますと、まず、あやめまつりでございますが、ことし9万700人ほどございました。去年が10万2,400人ですので、11%減ったことになります。水まつりにつきましては8万1,000人ございました。去年が9万8,000人ですので、17%減ったことになります。水まつりも今回は雨模様でしたので、逆に雨模様の中で8万人台だったのは、かえって皆さん頑張っていたなと思っております。あと、やませ蔵でございますけれども、6月から9月まで、ことしは約2,000人の方が来ていただきました。去年は500人でございますので、4倍にふえております。あと文教の杜でござい

ますが、丸大扇屋を含む文教の杜ですが、6月から9月にかけて6,100人来ていただきました。去年は4,000人でございましたので、53%ほどふえております。あと8月には高橋まゆみ人形展を開催させていただきましたが、8,500人来場していただいております。ただ、山形県の観光客数にはこの人形展は対象外になりますので、山形県の観光客数という算定には入ってきません。そんなようなことで、全体的には観光客数が減少という結果でございました。

しかし、山形デスティネーションキャンペーンは大変効果があったなと思っております。大変よかったなと思っていることの一番は、多くの皆様に、多くの市民にご協力いただいたということでございます。山形DCなので何とかご協力していただけてませんかということでお話ししますと、ああ、山形DCかということで、すぐに納得していただける方が非常に多かったなと思っております。観光に対する市民の皆様を高めるというふうなことが私どもの課の大切な使命でございますので、それに大変効果的であったなと思っております。

今後の観光施策につきましては、現在、まち歩きというのをメインにしておりますので、今後もこれを継続してやっていきたいと思っております。以上でございます。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 ご答弁、どうもありがとうございました。さまざまな課題や思いなんかを聞かせていただきました。ありがとうございました。

まず、1番目の質問でございます。長井市だけが、だけがというわけじゃないんでしょうが、参考賃借料ということで明示しているという状況にあると。具体的には正式に出さなくてもいいというふうな、農地法が改正になってということでございますけども、せっかく出されている現状を今年度の急激な米価の下落であります。

当然、来年度に反映するなんていうことは、みんな農家の方はわかっているわけではございませんけれども、今もうやめたいというのは農業委員会にもたくさん来てらっしゃる現状にある中で、来年度の小作、賃借料がまだ出てない、来年年明け早々になんていう話を会長のほうからお聞きしましたけれども、実質、農家を営んでいる方、もちろん離農をなされる方にしても、やっぱり基本的には、そういうことを出すのであれば早目に検討いただいてご提示いただくという形が私はいいのではないかと思いますし、ぜひそのような危機感なり思いを持って仕事に当たっていただきたいという、これは願いです。ぜひ農業委員会の会長に答弁いただきたいと思っておりますけども、いかがですか。

○小関勝助議長 鈴木榮一農業委員会会長。

○鈴木榮一農業委員会会長 お答えいたします。

梅津善之議員のおっしゃるとおりでございますけれども、農業委員会の事情もございまして。ということは、ことしは改選時期でもあり、また、データ収集に、膨大なデータを収集しなければ、この参考賃借料の算定の基礎というものをつくれなくて、そのデータ収集に大変時間が要しております、大変申しわけありませんけれども、そういう面に時間がかかって、もう少し、なるべく早く出したいのは山山でございますけども、その辺をご理解していただきたいと思っております。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 はい。理解していただきということでございますが、やっぱり現場で仕事をしている担い手農家でありますとか、当然離農なされる方でも同じ思いでないかと私は思っております。ぜひみずからの判断でそういう緊急な場合がありますとか大変な状況を踏まえた中で、今後もそのようなことがあることがない願っておりますけども、必ずあるかもしれないというときにも踏まえて、ぜひご検討をな

されて、緊急な対応も踏まえて、今後ともできるだけ早くご検討なされて、市民、農家の方に周知できるような方法を考えていただきたいものだと、これはお願いでございます。よろしくをお願いします。

それでは、山形DCについてでございます。期間中の豪雨でございましたり、さまざまな影響で観光客が伸び悩んだということ、当然、長井市は観光のまちではないという考え方も含めまして、今後、市長は観光交流人口をふやさなければいけないという思いでこのDCに取り組みまして、さまざまな催し物なり、当然JRと一緒に作ったポスターの作成も含めて、大変ご苦労なされたと思っております。

観光のまちではないと言われても、取り組んだ事実はございまして、ぜひ次年度になり、アフターDCに生かすことが山積みだという観光課長のご意見もございましたし、物ではなくてやっぱりこと、人を考えた観光というものが私は大切ではないかと思っておりますし、ぜひそれは今後とも生かしていただきたいし、反省を無にしないで、1人でも2人でも長井を訪れていただく方がふえるような努力をしていただきたいと思っております。ぜひ、その辺を市長はどうお考えか、お尋ねしたいと思います。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 長井は観光のまちでないということを上げたのは、市民の皆さんが、例えば観光のおまつりというのがありますよね。黒獅子まつりであったり、水まつりであったり、あやめまつりであったり、さまざまな行事もイベントもあります。それは市民が楽しむという意味ではすごくいいわけですよね。同時に、その際に周りの市町村から、あるいは遠くからもお越しいただいて楽しんでいただくというのはいいことなんですけども、しかし観光をなりわいとしている方がいらっしやらないという意味を言ってるんですね。

それはなぜかという、お祭りが観光だというふうに、それは否定はしませんけども、それイコールではないんですね。したがって、経済効果をどのくらい上げていくのかというのが観光に対する投資というふうに考えますとね、何でもいいじゃないですか、かわと道の駅だって、費用対効果で投資したらどのくらい回収すんだとおっしゃってるにもかかわらず、観光だけ違うんですね。それは違うだろうっていうふうに私は言っているわけです。

ですから、まず観光プラットフォームというのをきちんと構築して、外からいらしたお客様に、いかに長井の観光資源であったり貴重な、例えば今度長井ダムの百秋湖、あるいは三淵というのは、すごい観光資源だということはわかってるわけですよね。けども、それだけにはお客さんはなかなか呼べないんですね。それだけ呼んでも、また次の場所に行ったら残念ながら効果としては薄いと。

なぜ私ども行政が観光に取り組むかという、人口が減っていきますと、当然どんどんどん地域経済のパイが小さくなると。そうすると、いろんな仕事なくなってしまうと。これを避けるために、日帰りのお客様でも77名で定住人口1人に匹敵するというきちんとしたデータもあるわけですから、そうしますと、77万人来ていただくと1万人の匹敵するぐらいなんです。77万人は無理だとしても7万7,000人で1,000人なわけですから、そういった効果を生むための事業をやっていきなさいと。その面からいうと、一つのきっかけですけども、さまざまな取り組みを今後も続けなきゃいけないと。そのためにいろんなチャレンジもしなきゃいけないんじゃないかなということ言ってるわけでご覧になって、したがって、観光については方向性としては非常に市民の皆さんが協力していただいてもてなすということはすばらしいことですし、町なか歩きなども定着しつつあります

ので、あとは今度はいかにして外から定期的に、できるだけ年間を通じてお客様にお越しいただく工夫をしなければ、その工夫と、あといらしたお客様にどういうふうにして長井のものを全て楽しんでもらって、お金も使ってもらおうかと。その経済効果を市民の皆様で共有していこうということの視点から今後も一生懸命取り組んでまいりたいと思いますので、ぜひいろいろのご提言などありましたらお願いしたいというふうに思います。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 やっぱり反省をして、前向きに取り組んでいってほしいと思っております。

最後にでございますけれども、市長が子育て支援の拠点として複合施設というお考え方、また、街路事業により安心・安全な中心市街地の複合型公共施設などという考え方、もちろん市民からの要望を受けているということは十二分に理解するところでございますけれども、人口が減っていくという統計が出てるのは皆さんもご存じのとおりだと思いますけれども、それを踏まえて、公的な施設という考え方を市長はどう思っているのかなということをお聞きしたい。さらに、図書館であれ文化会館であれ、どうにかしなければいけないという現状を踏まえている中で、やっぱり今あるものの整理を進めて新しいものをという考え方というのを、これが私は基本だと思います。そういうことを踏まえて、どういうふうにご考えていらっしゃるか、お聞きしたいと思います。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津議員おっしゃるとおり、今ある施設をどうするかということは重要なわけですね。どういうふうに梅津議員がおっしゃっているか、逆に聞きたいんですが、きょうは議会ですからそんなことは聞けませんので、私のほうからお答え申し上げますと、もう6割、65%

ぐらいが小・中学校と文教施設なんです、整備しなきゃいけないのは。というか、今ある施設の大部分が。学校については、長井小学校を除いてはほぼ、20年スパンぐらいでいえば、大規模改修、耐震化。耐震化は終わってるわけですから、大規模改修をいかに進めるかということで、まず20年は大丈夫だろうと。あと各地区公民館、あと児童センター。児童センターは古いものについては大規模改修を始めなきゃいけないんですけども。それと、各地区にある体育館、ない地区もございまして、これらの古いものをどうするかというのが大きい問題なんです。それで大体6割なんです。残りの大きいものというのは、市役所と図書館と文化会館とか、あとは陸上競技場と、そういったものなんです。

ですから、そういったことを考えますと、人が減る減るつつつても、20年、30年で減っていくわけで、来年からいきなり2万人になるわけじゃないわけですよ。ですから、逆に私はお聞きしたいのは、人が減るから新たなものはつくれないんだという考え方は、それはちょっと余りにも長井市としてどうするかという将来ビジョンなしで考えてる考え方であって、じゃあ長井市はどういうまちを目指すんですかということですよ。そこは認識の違いですから、ここで議論してもしょうがないんでしょうけども。

例えば長井市が今後とも都市機能のある程度充実させて、周りのまちからも長井に遊びに来てもらう、買い物に来てもらう、あるいは今の20代、30代の方というのは、例えば長井に働いていても、うちが実家が長井にあるからって、長井に住むとは限らないですよ、そういう価値観ですよ。それだったら、長井に両親がいても自分は米沢だって赤湯だっていいわけじゃないですか。そういうふうに自分が住むところが子育て環境がよくて、教育がよくて、都市機能があって、それなりの便利な楽しい都市生活を送

れる、そういうところだったらいいという方もいっぱいいらっしゃるわけですから、どういうまちにするかということがまず問題であって、そして長井を選んでいただくような、そういうまちづくりをしなきゃいけないんじゃないかと。

そのときに、古い、どうせ人口減るんだから、今ある古い施設をどうするかという問題で、新しいものはつくる必要ないと、広域で考えたらいいんじゃないですかと。例えば文化会館も南陽でできるんだから長井は要らないと、そういう極論もありますよ。それでいいんですかということなんです。そこを議論しないで公共施設のことを、古い施設がいっぱいあってこれから整備しなきゃいけないからどうするんだというふうになってしまうと、もう将来構想なんて、ビジョンなんてないじゃないですか。ですから、そここのところは。

あと私もはしょせん3割自治体ですから、7割は国、県からいただいているいろんな事業を進めているわけなんで、あとは情報をいかに収集して、あとは市民の英知を結集していろんな新たなこともチャレンジしていくという考え方が私の考え方でありまして、その考え方を、確かに批判票も38%ありましたけども、62%の方が支持いただいて今回当選させていただいたと、3期目も引き続きということでございまして、そういった意味でいえば、公共施設についてはやっぱり必要なものは、新たなものだとしても議論した上で整備していくと。今ある施設はどうするかということ、これ必要でない、これはまとめようというものも当然あるわけですし、その辺もやっぱり議論して進めていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っているところです。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 何も新しいものを建てるなんていうことは一言も申し上げているわけではございませんで、やっぱり痛みを伴う整理

しなければいけないものは道筋をつけて整理していくべきであって、その上でこういったものを建設に向かって進まれていることは、何も否定するものではございません。

ただ、今ある、整理しなければならない、市長がおっしゃられたことは、やっぱり道筋をつけて、次の段階に取り組むべきではないかなという思いで申し上げてるわけございまして、全て新しいものはだめだなんていう話では私はございませんので、その辺はご理解いただきたいと思えますし、人口が減るといふ、それは余りにも架空で、減らないかもしれないわけございまして、何も投資が、将来に負担かかることが、市民全部がだめだなんていうことは言っていないと思えますので、その辺は見きわめた上でご判断いただきたいと思えますし、古いものをどうするかという議論は、先送りしないで、身を切ってもやっていくんだという、私は覚悟が必要だと思うんですが、その辺は市長はいかがですか。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ちょっと私はそんなことは一切言っておりません。議論を先送りするなんていうことは一切言っておりませんし、むしろ平成24年の行革のほうにこちらから提案して、古い施設がいっぱいあるので全部見てくださると、先送りしたくないからやったわけですよ。

それと、例えば西根の皆様からは非常におしかりを受けましたけども、あと平野の方もそうですが、かつての小学校の体育館、これについては残念ながら今回、屋根を直してもらって、あるいはペンキを塗り直したら、とりあえずこれはその後、壊したいということは申し上げてるわけで、先送りしてるなんて、どこから出た話ですか。そういう勝手なことは言わないでほしい。

それから、私はこれから議論する際に、まず国のほうも、たまたま今年度中にそういう公共

施設の整備計画ということがありましたけども、私どもはもう3年も前からその準備を進めているわけですし、これから議論するという事なんです。

午前11時59分 散会

というのは、今までは財政再建ということで、手をつけられなかったわけですよ。いや、まだ財政は全然よくなってないんだと、梅津議員はおっしゃるかもしれませんが、私は一定程度なつたと。ただし、我々は3割自治体ですから、行革に終わりはありません。いつまでたつたって健全化なんて言えないって言えば言えないですよ。そんなこと言ってたら、何でもそうなのわけですし、先送りするなんていうことは一切言っておりませんので、そこは訂正をお願いしたいというふうに思います。

○小関勝助議長 2番、梅津善之議員。

○2番 梅津善之議員 先送りするというのは訂正させていただきますけども、順序の考え方の違いぐらいかなという感覚では、それはいいかどうかですけども、やはり考え方でございます。いろんな市民の方に要望があるのは当然私も市長も同じように聞いてると思いますので、それは進めてもらって何ら差し支えないと考えておりますけども、やっぱり今までのものを考えながら進めていっていただきたいなという、これはお願いでございます。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○小関勝助議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○小関勝助議長 本日はこれをもって散会いたします。

ご協力、まことにありがとうございました。